

①液剤の種類は何種類あるか

→現在（2024/03/19）公式には13種類ですができるだけ客先のご事情に合わせてカスタムメイドもしていますのでそれを含めると20種類を超えています。

②屋内用と屋外用では何が違うのか

→ナフィオンの量と金属粉の粒子径が大きな違いです。屋外では粒子径が大きく、室内では小さくしています。

③通常の光触媒との違い

→特長をまとめた表を作っていますのでご参照ください。

④フッ素樹脂とありますが一般的なフッ素と同じ15年程度の耐候性があるか

→建築用のフッ素樹脂はフッ素含有量が20%~30%なのですが当社が採用しているナフィオンは理論的上限の70%でまったく耐候性のレベルが違います。

⑤一般的な塗装が難しい難付着素材（タイルなど）への施工は可能か

→タイルやセラミックサイディング等には有機塗膜は接着しにくいとされていますがナフィオンは耐水性が良好な性質もあいて、下塗り抜きで塗布できます。ただ、耐摩耗性が弱い場合もありますので「施工後はゴシゴシ擦らないようにしてください」という注意喚起が必要です。

⑥屋内用、屋外用ともに効果の持続性はどのくらいか（一概に答えにくいかと思いますが見解をいただきたいです）

→セルフクリーニング機能は20年以上持続しますが、殺菌、防カビ機能は金属粉の溶出で寿命が到来しますので環境に左右されます。一般的には4、5年と考えています。

⑦艶あり？艶消し？

→薄膜なのであまり下地の艶に影響を与えませんが、一般にはやや艶が下がる傾向にあります。

⑧効果の持続性や効果の強さにおいて環境等で違いが出る場合どのような事が要因になるのか（温度、湿度、日当たり、汚れの付着等） 現在直近で、

→なにを主な機能として求めるかに左右されますがセルフクリーニングは降雨が直接当たる部位でもっとも効果が高く、日照はそれほど必要ではありません。消臭はモロ照射する光の量と強さに左右されます。殺菌機能は銅イオンがいちど発生するとあとは持続しますので間歇的な光照射で十分です。

①病院の外壁面（カビ、藻）のクリーニング及び対策

→水洗や通常の洗剤で汚れを落とすだけで十分に漂白剤による除カビは不要です。

②シアター施設スクリーンのクリーニング及び対策（スクリーン下に水を張っており、映像に合わせて噴水が上がったりするような環境でスクリーン自体が常に濡れている状況）の2件でお見積り提出及び提案が控えています 現場のイメージがしにくいかと思いますがもし提案時に参考になるしくお願い致します。

→防カビ機能を強烈に求められる用途ですから金属粉をもっとも多く含んでいる（白癬菌対応）をお勧めします。名前の通り靴の水虫も防ぐほど殺菌・防カビ効果が油樋です。